

研究テーマ

日常生活の技能を身に付け、心理的な安定を促すための支援の在り方

～「見て分かる支援・評価」と「仲間づくり」を土台とした取組を通して～

1

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
自立活動の時間・学級活動
「自分でできることをふやそう！
～みんなでためよう！パッチリポイント！～」

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）
○学習の準備やえんぴつ削り、提出物を忘れずに出す習慣を身に付ける。

指導仮説
段階を細かく設定した練習場面を設けたり、視覚支援を工夫して分かりやすく手順を示したり、達成感につながる評価を行ったりすれば、児童の意欲が高まり、習慣化につながるであろう。
（キーワード：『見て分かる』）

児童生徒の実態

2

指導・評価の計画

◆表1 指導・評価の計画

	主な学習活動	目標	評価方法
1次	【学級全体】 自分でできることをふやそう！ ～みんなでためよう！パッチリポイント！～	毎日家や学校で必ずすることを確認し、実践しようとする意欲を高める。 提出物の出し方や、報告の仕方、忘れ物をした時に借りる時などのお願いの仕方を知り、実践しようとする意欲を高める。	行動観察 チェックシート 行動観察
2次	【個別】 学校で学習の準備の練習をしよう。	必要なものを確認しながら、選び取って準備をしたり、納めたりすることができる。	行動観察 チェックシート
3次	【個別】 次の日のために家ですることを確認し、挑戦しよう。 （学習の準備、えんぴつ削りなど）	家での過ごし方（毎日必ずすること）を確認し、それによって自分で進んで行動することができる。	チェックシート

◆表2 実践前後の変容の評価

評価内容	評価方法
・実践前後での、児童の学習準備や提出物の様子 ・忘れた時などによる児童の行動の様子（お願いの仕方など）	行動観察 チェックシート

3

指導の実際① 『見て分かる』学級全体への支援

①朝のパッチリポイント⑤（朝会までに）

パッチリポイントタイム
5つの項目に取り組み。

確認タイム
もし8:15までにできなかった場合は、この時間にしてOK

宿題
先生に伝えたいこと
・〇〇を忘れたので貸してください。
・宿題の問題ができませんでした。
・今日は薬があります。

②提出物の出し方（開いて提出できるB4サイズのかごに変更）

相手意識
・向きをそろえて
・開いて
・整頓して

4

指導の実際② 『見て分かる』学級全体への支援

宿題・持ってくるものを連絡帳に書き写す
→次の日チェック
→パッチリポイント

チェックシート(5項目)
・宿題
・えんぴつ削り
・目標のがんばり
・直しのやりきり
・時間割&忘れ物〇

そのほかの頑張りにもパッチリポイント
「今の〇〇までき！」
担任・支援員から

パッチリポイントカード
パッチリポイントの数だけ進む。5の倍数の数を通過したら、ビー玉ひとつ

いっばいになったらおめでとう会を開こう！
3人全員の協力やがんばりには、大きなビー玉（学校行事等とも関連させて）

5

指導の実際③ 『見て分かる』個別の支援

見たいページをすぐに開けるようにノートの角をカット

宿題
量を調節し、やり切れるように工夫

連絡袋
帰ってからすることを
明記した手順表
※配色も工夫

学習の準備のために
教科ごとに袋に入れて
分かりやすく

連絡ノート
持ってこられることを
明記した手順表
※配色も工夫

6

指導の実際④『見て分かる』学級全体への支援



時間割ボード
忘れ物はないか、交流学級で学習する時間はいつかを自分で確認しながら。



交流学級で学習する時にはマグネット

時間割ボード
学級で決めている自分の色をシールを貼って、自分のカードを分かりやすく。
(友だち同士でカードが混ざらないように)



やりきりBOX
直しがあるかないかを分かりやすく。

7

指導仮説の検証

●**児童生徒は目標を達成したか。**

- ・「概ね達成」できた。

●**判断の理由・根拠**

- ・学習の準備については、国・算・理・社の4教科であるが、約9割はできている。鉛筆削りは約7割。

●**指導の工夫は有効であったか**

- ・有効であった。

●**判断の理由・根拠**

- ・『見て分かる支援』を工夫したことにより、「やるべきこと」「できていること」「できていないこと」「評価」が分かりやすくなり、児童の意欲が高まっていた。
- ・パッチリポイントの取組によって、学級全体が「できたことを増やそう」「できていないことをできるようにしよう」という前向きな雰囲気変わった。
- ・児童自身が、「自分は1学期よりも今はよくなっている。頑張っている」と感じている。
- ・指導者の声かけを素直に受け入れたり、自分でどうしたらいいかを考えたりしながら行動できるようになってきた。

8

指導の改善案

成果（よかった点）	課題（改善が必要な点）
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の準備だけでなく、生活全体の取り組みとしてパッチリポイントをつけたことで、児童の意欲が高まった。 ・方法と評価を『見える化』したことが、児童にとっての分かりやすさや達成感、やる気につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習準備の習慣化



成果・課題を踏まえた改善案

- ・今後はさらに、学校と家庭との連携を図りながら、児童の日常生活の技能を身に付けさせるための方法を考える。（連絡帳の活用、児童への評価を学校と家庭の両方向から行い、より自信をつけさせるための方法など）
- ・保護者の願い、児童の願いを共有化し、支援方法を考えていく。

9